

学会便り 第126回春期大会報告

 第26回「若手の会」および「若手育成のための合同会合」報告
 Meeting report on “the 26th Youth meeting” and
 “Associated meeting for youth development”

西田 進一*・吉野 路英**

Shinichi NISHIDA* and Michihide YOSHINO**

1. 若手の会第26回会合

広島大学で開催された軽金属学会第126回春期大会の2日目の昼食時間（平成26年5月18日、11:50～13:00）に、第26回若手の会を開催しました。参加人数は学生、社会人を合せて42名（学生約15名）でした。今回は、(株)UACJの岩村信吾さん、および九州大学の池田賢一先生よりご講演をいただきました。

今回、お二人からは、海外留学の経験のお話をいただきました。岩村さんからは、ドイツのアーヘン工科大学での1年間の留学について、特に企業人としての海外留学の意義をメインテーマとしてのご講演でした。日本人の企業研究者と海外との違い、仕事と私生活に対する考え方、アーヘンの街並み、ドイツのビール、留学先での旅行、等々、大変興味深いお話でした。個人的には、「別領域の技術・能力を得るには痛みを伴う努力が必要。企業人が理論研究をするのは、淡水魚が海に住むようなもの。」という言葉が印象的でした。池田先生からは、アメリカのバージニア工科大学での9か月間、および、イギリスのパーミンガム大学での3か月間の留学のお話をいただきました。日本学術振興会の若手研究者海外派遣事業によるものであり、国際的な研究の連携のお話や、通勤方法、住宅事情、ご家族での滞在、等々、大変興味深いお話でした。「出国前後でいろいろなことに対する考え方が変わりました。若い間に海外滞在を経験されることをお勧めします！」という言葉が印象的でした。

以上のように、お二方より大変興味深い話題を提供していただき、なごやかな雰囲気にて、若手同士の親睦を深めるこ

とができました。

最後に、会場や昼食の準備にご尽力いただきました第126回春期大会実行委員の皆様、特に広島大学の皆様にこの場を借り厚く御礼を申し上げます。

2. 若手育成のための合同会合

5月16日の夕方から、西条駅周辺で若手育成のための合同会合を開催しました。企業側から5名、大学側から10名参加いただき計15名で親睦を深めました。自己紹介にはじまり、お互いの研究内容、趣味、また就職の話など色々な話題で盛り上がりました。人数が多すぎないこともあってか、すぐに打ち解けて和気藹々とした雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。また、皆さん同世代の軽金属の関係者と接することで、お互いにより刺激を受けたのではないかと思います。

以上のように、若手の会では学生のみならず、若手研究者の横のつながりを深める場を提供しております。今後とも皆様のご参加をお待ちしております。

若手の会世話人 名古屋大学 久米裕二
 群馬大学 西田進一
 三菱アルミニウム(株) 吉野路英
 (株)UACJ 安藤 誠

追記：若手の会の活動内容に対してのご意見、ご要望などございましたら、下記若手の会メールアドレスまでメールをお送り下さい。どんなことでも構いません。皆様の声をお待ちしております。

若手の会メールアドレス：keikinwakate@gmail.com



図 若手の会の様子（中、左）、合会の様子（右）

*群馬大学（〒373-0057 群馬県太田市本町29-1）。

**三菱アルミニウム株式会社（〒410-1127 静岡県裾野市平松85）。

受付日：平成26年5月31日